

# 國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕南信州・遠山郷の旧木沢小学校：  
猫校長のいる木造校舎

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-02-05<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 田嶋, 一, Tajima, Hajime<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/00000364">https://doi.org/10.57529/00000364</a>                                      |

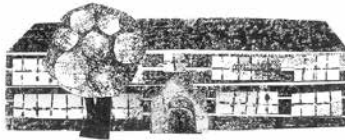
## 南信州・遠山郷の旧木沢小学校―猫校長のいる木造校舎

田嶋 一

過疎化、少子化による学校の統廃合が進み、廃校になる学校が絶えない。私の学んだ小、中学校の校舎も今はない。地域の学校は、教育のセンターであり、情報と文化の大切なセンターでもある。母校という言葉にも示されるように、学校にはそこで学んだ人たちの生活の歴史と記憶が、厚く蓄積している。学校がなくなるとは地域社会にとって大きな痛手である。残念という他はない。と、つねづね思っていたところ、廃校になった旧い木造校舎が保存され、地域づくりの拠点として新しい役割を担い始めたところがあるということを知った。

二〇一七年九月初旬、「地域と学校」の歴史的研究を主テーマとする共同研究の一環として、私たちは南アルプスのふもと長野県飯田市南信濃の旧木沢小学校を訪ねた。木沢小学校の生徒数の減少に伴い二〇〇〇（平成十二）年に廃校になっている。やむなく廃校という事態を迎えたとき、学校の消滅を惜しんだ地元の人々の賢人が結束して、一九三二（昭和七）年に建てられた古い木造校舎の保存運動に立ち上がった。そして、学校は地域の文化遺産として大切に保存されることになり、地域の新たな交流拠点、文化センターとして甦ったのである。

旧木沢小学校は今、外の世界と未来に向けて、地域の人たちの願いと想いを発信し続けている。学校には有名な猫の校長がいて、尻尾を高々とあげて玄関から私たちを迎えに出してくれた。掃除の行き届いた廊下には、猫校長への感謝状が掲げてあった。教室は、かつてあった遠山森林鉄道の展示室や、国指定無形文化財になっている「霜月祭り」の展示室などにも利用されている。校舎の一角には、私たちが思っていた以上にたくさんの方々の学校文書や日々の教育実践の記録が、散逸を免れて大切に保存されていた。私たち研究者にとっては宝の山である。調査の間にも何人もの人たちが学校



南信州遠山郷 旧木沢小学校

(デザイン ペケーニヤスイサ)

もう一つの不思議は、これもまた四十年近く前、明治期の雑誌『少年世界』の復刻に一緒に取り組んだ編集者のO氏が、私たちの調査中、学校に保存されている遠山森林鉄道関係資料の取材に突然やってきたことである。何たる偶然。お互いに開いた口が塞がらなかった。こんなこともあって、地域の人たちが力を合わせて守っているこの木造校舎は、地域の活性化の拠点であると同時に、人間同士をつなぎ、過去と現在と、そして未来をつなぐパワースポットになっている、とつくづく思った。この保存・文化運動の中には、私たちが学ばなくてはならないことが実にたくさんあるようだ。

(教育学)

にやってきた。皆さんが木造校舎のぬくもりに癒され、やさしい笑顔になっていたことが、強く印象に残っている。ところで、懐かしさがいっぱいこの木造校舎で、私はなんとも不思議な体験をすることになった。しかも、二つも重ねて、である。ここに記しておきたい。

実は私にとっては、遠山郷は二度目の訪問であった。四十年ほど前、まだ大学院に籍を置いていた頃、知人に連れられて「霜月祭り」を観に来たことがあった。寒さに震えながら、夜を徹して、大地の力を象徴する鬼と人びとの交流が次第に昂まってゆく湯立ての神事に、我を忘れていたことを今でも鮮明に憶えている。場所の記憶が薄れてしまっていたのだが、その時に訪れたのがこの地であったことを、ここに来てはっきりと思い出した。寒さと感動に身震いしながら朝を迎えることになったのは、あろうことか、道路を挟んで木沢小学校の隣にある木沢正八幡神社で行われた祭りだったのである。今回改めて神社のたたずまいをみると、屋根に三本の煙突が立っていた。祭りの当日は、ここから湯立ての神事の竈の煙がモクモクと出てくるわけだ。ひっそりとしている神社をのぞいて小学校に戻ると、「霜月祭り」の大型のカルタ絵が壁に張ってある教室があった。子どもたちが、地域の伝統文化に取り組んで、みんなであつたカルタである。子どもたちの豊かな表現力には本当にびっくりさせられたが、飯田・下伊那地域の小学校には大正デモクラシー期に児童自由画教育運動に取り組んだ歴史があることに思い至り、なるほど、と合点した次第であった。この冬、私は再度、木沢の霜月祭りに参加することにした。